

完全コピー譜

インストラクター 打田十紀夫



RittorMusic

『ブルース・ギターの常套句 生! 2』完全コピー譜

■採譜・解説・浄書・DTP／打田十紀夫 (TABギタースクール)

■企画制作／株式会社リットーミュージック

※無断複製・転載を禁ずる

CONTENTS

- 本書で用いるタブ譜について・カポタストの使用について 4
- 本書で用いる変則チューニングについて 5

PART 1 ダウンホーム・アコースティック・ブルース

- 練習曲 1 Henry Thomas' Fishing 6
「ヘンリー・トーマス・フィッシング」
- 練習曲 1 のワンポイント解説 7
- 練習曲 2 Pallet On Your Floor 8
「パレット・オン・ユア・フロア」
- 練習曲 2 のワンポイント解説 9
- 練習曲 3 Furry's Crow Jane 10
「ファリーズ・クロウ・ジェイン」
- 練習曲 3 のワンポイント解説 11
- 練習曲 4 Bo's Twister Blues 12
「ボーズ・ツイスター・ブルース」
- 練習曲 5 Mama Let Me Lay It On You 14
「ママ・レット・ミー・レイ・イット・オン・ユー」
- 練習曲 6 Tribute To Clifford Gibson 16
「トリビュート・トゥ・クリフォード・ギブソン」
- 練習曲 4～6 のワンポイント解説 18

PART 2 テキサス・カントリー・ブルース

- 練習曲 7 Lemon's Boogie 20
「レモンズ・ブギ」
- 練習曲 8 Bye Bye Baby Blues 22
「バイバイ・ベイビー・ブルース」
- 練習曲 7～8 のワンポイント解説 23
- 練習曲 9 Texas Connection Blues 24
「テキサス・コネクション・ブルース」
- 練習曲 10 Goin' Down Slow 26
「ゴーイン・ダウン・スロー」
- 練習曲 11 Lightnin's Shuffle 29
「ライトニンス・シャッフル」
- 練習曲 9～11 のワンポイント解説 32

PART 3 ミシシッピー・デルタ・ブルース

- 練習曲 12 Lonesome Jackson Blues 33
「ロンサム・ジャクソン・ブルース」
- 練習曲 13 Tommy's Driving Blues in D 35
「トミーズ・ドライヴィング・ブルース・イン・D」
- 練習曲 12～13 のワンポイント解説 37

- 練習曲 14 McClellan's Blues 38
「マクレナンス・ブルース」
- 練習曲 15 Delta Tradition in A 40
「デルタ・トラディション・イン・A」
- 練習曲 16 Roberts' Blues in A 42
「ロバーツ・ブルース・イン・A」
- 練習曲 14～16 のワンポイント解説 45

PART 4 ラグタイム・ブルース

- 練習曲 17 Moore's Rag in C 46
「ムーアズ・ラグ・イン・C」
- 練習曲 18 South Carolina Rag 48
「サウス・カロライナ・ラグ」
- 練習曲 19 Big Bill's Stomp 50
「ビッグ・ビルズ・ストンプ」
- 練習曲 17～19 のワンポイント解説 53
- 練習曲 20 That Will Never Happen No More 54
「ザット・ウィル・ネヴァー・ハプン・ノー・モア」
- 練習曲 21 Gary's Raggin' Blues in E 56
「ゲイリズ・ラギン・ブルース・イン・E」
- 練習曲 20～21 のワンポイント解説 58

PART 5 ボトルネック・スライド・ブルース

- 練習曲 22 Slide Blues for Elmore 59
「スライド・ブルース・フォー・エルモア」
- 練習曲 23 Patton's Spoonful 62
「パットンズ・スプーンフル」
- 練習曲 22～23 のワンポイント解説 63
- 練習曲 24 Fred's Modal Sliding 64
「フレッズ・モーダル・スライディング」
- 練習曲 25 Come On In My Kitchen 66
「カモン・イン・マイ・キッチン」
- 練習曲 26 Bo Weavil's Slide Blues in G 68
「ボー・ウィーヴィルズ・スライド・ブルース・イン・G」
- 練習曲 24～26 のワンポイント解説 70

PART 6 ソフィスティケイティド・ブルース

- 練習曲 27 Lonely Night Journey 71
「独りの夜道」
- 練習曲 28 Lonnie's Mystique 74
「ロニーズ・ミスティーク」
- 練習曲 27～28 のワンポイント解説 77

本書で用いるタブ譜について

本書で用いるタブ譜には、ピッキングする右手の指を表すラインが付けてあります。数字の横のラインが下向きの場合、その音を親指でピッキングします。ラインが上向きの場合、人差し指側(人差し指、中指、薬指のどれか)でピッキングします。右の譜例では、3、4拍目で、右手の親指と人差し指を交互に用いてピッキングすることが分かるはずです。

フィンガーピッキングでは、右手のどの指を用いてピッキングするかがサウンドに大きな影響を与えますので、タブ譜の数字に付いたラインの向きに十分注意して練習するようにして下さい。



カポタストの使用について

このDVDの演奏では、カポタスト(通称:カポ)を2フレット、もしくは4フレットに付けて演奏しました。私は近年ソロ演奏においてはカポを多用する傾向にあります。DVDの中でも説明しているように、カポを付けることによって、開放弦の音と押弦した音のバランスが良くなるからです。また、弦高がやや低くなって弾きやすくなります。

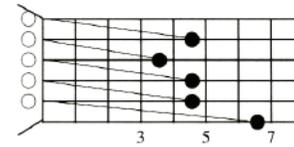
カポを付けると、実際に出ている音は楽譜の音より高くなることとなります(例えば、2フレットに付けると半音2つ分、すなわち1音分高くなります)が、カポの位置を開放弦とみなして弾けばいいので、演奏上混乱するようなことは何もありません。もちろんカポを使用しないで練習曲にトライしてもらっても全く問題ありません。



本書で用いる変則チューニングについて

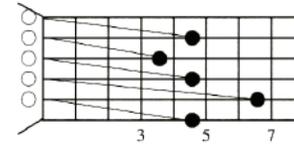
■ドロップDチューニング…DADGBE / 6→1

	レギュラー	ドロップD
1弦	E	E
2弦	B	B
3弦	G	G
4弦	D	D
5弦	A	A
6弦	E	1音下げる→ D



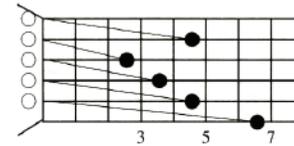
■ドロップGチューニング…DGDGBE / 6→1

	レギュラー	ドロップG
1弦	E	E
2弦	B	B
3弦	G	G
4弦	D	D
5弦	A	1音下げる→ G
6弦	E	1音下げる→ D



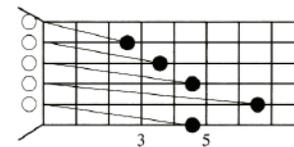
■オープンDチューニング…DADF#AD / 6→1

	レギュラー	オープンD
1弦	E	1音下げる→ D
2弦	B	1音下げる→ A
3弦	G	半音下げる→ F#
4弦	D	D
5弦	A	A
6弦	E	1音下げる→ D



■オープンGチューニング…DGDGBD / 6→1

	レギュラー	オープンG
1弦	E	1音下げる→ D
2弦	B	B
3弦	G	G
4弦	D	D
5弦	A	1音下げる→ G
6弦	E	1音下げる→ D



練習曲 1

Henry Thomas' Fishing

ヘンリー・トーマス・フィッシング

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ヘンリー・トーマス、ミシシッピー・ジョン・ハート

<レギュラー・チューニング: EADGBE / 6→1> <キー-C> <Capo 4>

1st time only

C F

C G C

F C

The main score consists of four systems of guitar notation. Each system includes a treble clef staff with a melody line and a bass clef staff with a bass line. Chord changes are indicated by letters (C, F, G) above the staff. The first system includes a '1st time only' marking. The second system has a 'C' chord change. The third system has 'G' and 'C' chord changes. The fourth system has 'F' and 'C' chord changes.

F C

This system shows the continuation of the guitar score from the first page, with chords F and C indicated above the staff.

1.

This system shows the first ending of the piece, marked with a '1.' above the staff.

2.

This system shows the second ending of the piece, marked with a '2.' above the staff. It features a double bar line and a repeat sign.

■練習曲 1のワンポイント解説

【練習曲 1】

テキサス・ソングスター、ヘンリー・トーマスが歌った「Fishing Blues」を基にした練習曲です。ヘンリー・トーマスは、ギターをストラミングで弾いているのですが、ここではオルタネイティング・ベースを用いたフィンガー・ピッキング・ソロにアレンジしました。

Cコードの小節は、基本的に左手の薬指を5弦と6弦の各3フレット間で移動させながら、小指で高音部にメロディを加えます。左手の指の独立感をやや要します。Fコードは、カントリー・ブルースではお馴染みのグリップ・フォームで、6弦1フレットのベースは親指でネックの上から握り込んで押さえます。

最も難しい箇所が、7ページの1段目の3小節目から始まる、Cコード内でのカウンターポイント・パートでしょう。ここでは、人差し指を2弦1フレットに置いたまま、他の中指～小指の3本をバラバラに動かして、メロディとベース・ラインを別々に動かします。ゆっくりのテンポで何度も練習して、その動きを左手に覚え込ませてください。

練習曲 2 **Palet On Your Floor**
 パレット・オン・ユア・フロア

trad. arranged by 打田十紀夫

※参考ブルースマン: ミシシッピー・ジョン・ハート

<レギュラー・チューニング: EADGBE / 6→1> <キーC> <Capo 2>

The main score consists of five systems of music. Each system includes a treble clef staff with a melody and a guitar staff with tablature. Chord changes are indicated by letters F, G, C, and E above the treble staff. The tablature shows fret numbers (0-3) and techniques like triplets and bends (marked with 'H').

This section provides a more detailed view of the guitar part, showing two systems with first and second endings. It includes a treble staff with a melody and a guitar staff with tablature. Chord changes C, G, and C are indicated. The second ending includes a double bar line and a repeat sign. Below this, there is a separate staff showing a specific fretting technique with a capo sign and a treble clef.

■練習曲 2のワンポイント解説

【練習曲 2】

ミシシッピー・ジョン・ハートをはじめ、多くのフォーク・ブルース・アーティストに親まれてきたトラディショナルなメロディです。ここでも基になっているのは、右手親指によるオルタネーティング・ベースです。少し変わっているのが1小節目で、ここではCコードを押さながら小指を2弦3フレットに加え、そのフォームのまま、1フレット上げ下げして曲の導入部となるフレーズを弾きます。

ミシシッピー・ジョン・ハートは、そのレパートリーのほとんどにオルタネーティング・ベースのテクニックを取り入れてプレイしました。プレイするキーの特性をうまく活かしたそのアレンジは、フィンガースタイル・ギターを学ぶ人にはきっと参考になるはずです。前作『ブルース・ギターの常套句生!』をはじめ、『リアル・アコースティック・ギター／カントリー・ブルース』(リットーミュージック)や『フィンガーピッキング・ブルース・ギター』(TABギタースクール)など、私の教則本でもいくつかそのアレンジを紹介していますので、参考にいただければ幸いです。

練習曲 3

Furry's Crow Jane

ファリーズ・クロウ・ジェイン

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ファリー・ルイス

<レギュラー・チューニング: EADGBE / 6→1> <キー-E> <Capo 2>

D.S. (al Coda)

■練習曲 3のワンポイント解説

【練習曲 3】

8小節ブルースの定番進行を用いたトラディショナル・ブルースの「Crow Jane」は、数多くのブルースマンのお馴染みのレパートリーとして古くから演奏されてきました。ここで取り上げた練習曲は、メンフィス・ブルースの巨人、ファリー・ルイスのプレイを基にしています。

出だしは、左手の人差し指を3弦1フレットから4フレットにスライドさせ、中指を1弦4フレット、薬指を2弦5フレットに加えたEコードを押さえます。ちょうどDコードを2フレット上げたフォームです。このフォームから人差し指を上げて弾く3弦の開放が、次のB7コードで弾く4弦4フレットのベース音への経過音になります。

リピート後の2nd エンディングでは、通常のロー・ポジションのEコードを押さえながら小指で2弦2フレットをプリング・オフし、続いて人差し指での3弦1フレットのハンマリング・オンを加えることで、メロディアスなフィルインを弾きます。

練習曲 4

Bo's Twister Blues

ボーズ・ツイスター・ブルース

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン: ボー・カーター

< ドロップDチューニング...DADGBE > < キー-D > < Capo 2 >

[A] A7 D

A7

D (D6) ✂

D

A7 D A7 to ① 1. D

2. D A7 [B]

D A7

D (D6) Coda D D7

D.S. (al Coda)

練習曲 5 Mama Let Me Lay It On You

ママ・レット・ミー・レイ・イット・オン・ユー

trad. arranged by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ウォルター・コールマン、ブラインド・ボーイ・フラ-

<レギュラー・チューニング: EADGBE / 6→1> <キー-G> <Capo 2> <メロ-リズム>

Verse

G G7 C

1st time only

E \flat 7 G \flat G D7(#9) D7

C7 G Var. G C E \flat 7

G \flat G D7(#9) D7 C7 G

G \flat G D7(#9) D7

C7 G G7



Tokio Uchida & Woody Mann

練習曲 6 **Tribute To Clifford Gibson**
 トリビュート・トゥ・クリフォード・ギブソン

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:クリフォード・ギブソン

< オープンGチューニング…DGDGBD > < キー-G > < Capo 4 > < ♪ = ♩ >

A G

C7

G D7

G to ♯

B

C7

G D7

G

D.C. (al Coda)

♯ Coda G7

■練習曲 4～6のワンポイント解説

【練習曲 4】

ボニー・カーターは、1930年代のブルース界を席巻したチャットマン一族のストリング・バンド「ミシシッピー・シークス」のメンバーで活動する一方、ソロ・プレイヤーとしても100曲を超える多くの録音を残した実力者です。様々なチューニングと多彩なテクニックを駆使し、独特のハーモニー感覚を盛り込んだ彼のギター・アレンジは、フィンガーピッキングの達人と言っているほど完成度の高い素晴らしいものでした。

この練習曲は、そんなボニーの「Twist It Babe」という曲を基にしました。全体的にオルタネイティング・ベースのアプローチを用いています。変わっているのが、12ページ3段目の3小節目から登場するD6コードです。ここでは、人差し指で2弦3フレット、中指で3弦4フレット、薬指で1弦5フレットを押さえながら、余っている小指で2弦6フレットの音を加えてメロディを作りますが、厳密にはD6コードともいい難く、名前の付けようのない不思議なコードです。

Bパートは、5フレット・ポジションのA7コードとDコードを用いて組み立てたバリエーションです。

【練習曲 5】

トラディショナル・ブルースの「Mama Let Me Lay In On You」のメロディを基に組み立てた練習曲です。ブラインド・ボーイ・フラワーやレヴァランド・ゲイリー・デイヴィスもレパートリーにしていたようですが、ここでのメロディはウォルター・コールマンの1936年録音バージョンを基にしています。

3小節目では、2拍目ウラで小指が2弦4フレットを押さえると同時に、Cコード・フォームを指板から浮かせます。そして1弦と5弦の開放弦を弾いた後、1弦3フレットに小指を持っていくと同時に、再びCコード・フォームに各指を戻します。5小節目前半のGコードは、Dコードの形を7フレットで押さえるフォームを用いますが、1フレット下から半音上げてそのポジションに持っていくことによって、メロディアスな効果を生み出します。

私の著書『リアル・アコースティック・ギター／ラグタイム・ギター』（リットーミュージック）では、この曲とGのキーの他のアレンジを組み合わせた、メドレー形式の「G Rag Journey」という練習曲を収録してあります。参考になると思いますので、そちらも是非トライしてみてください。

【練習曲 6】

クリフォード・ギブソンは、1901年ケンタッキー州ルイヴィルに生まれ、1920年代にミズーリ州セントルイスに移り、同地で主に活動したブルースマン。ロニー・ジョンソンのギター・プレイに大きな影響を受けたというだけあって、シングル・ノートを効果的に取り入れたメロディアスなフィルインは彼の得意とするところでした。

この曲は彼の「Tired Of Being Mistreated」を基にした練習曲で、オーブンGチューニングを用いたアレンジになっています。愁いを帯びた曲調ながらも、どことなくコミカルなフィーリングが漂う印象的なサウンドが特徴です。基本的にはオルタネイティング・ベースを用いますが、曲中ずっとそのリズムが支配するわけではなく、ある時はシングル・ノート・パッセージを弾いたり、あるいは変則的なベースを弾いたりします。3度ハーモニーが下降するBパートの出だしの3小節目などは、親指のピッキング回数が多いので、あまり速く弾きすぎると忙しくなってしまうので注意して下さい。



John Cephas & Tokio Uchida

練習曲 7 **Lemon's Boogie**
レモンズ・ブギ

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ブラインド・レモン・ジェファーソン

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-A> <Capo 2> <メロディ>

System 1: Treble clef, key signature of two sharps (F# and C#), 2/4 time signature. Chords: A, A, A7. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

System 2: Treble clef, key signature of two sharps. Chords: D, A. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

System 3: Treble clef, key signature of two sharps. Chords: E, E7, A. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

System 4: Treble clef, key signature of two sharps. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

System 5: Treble clef, key signature of two sharps. Chords: B, D7, A. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

System 6: Treble clef, key signature of two sharps. Chords: D, D7. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

System 7: Treble clef, key signature of two sharps. Chords: A, E7. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

System 8: Treble clef, key signature of two sharps. Chords: A. Includes guitar tablature for strings T, A, B and a triplet.

System 9: Treble clef, key signature of two sharps. Chords: Coda, A7. Includes guitar tablature for strings T, A, B.

D.C. (al Coda)

練習曲 8

Bye Bye Baby Blues

バイバイ・ベイビー・ブルース

music by Little Hat Jones

※参考ブルースマン:リトル・ハット・ジョーンズ

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-G> <Capo 2> <メロディ>

Score for 'Bye Bye Baby Blues' (練習曲 8). The score is written for guitar in G major, capoed at the 2nd fret. It consists of four systems of music, each with a treble clef staff and a guitar staff. The guitar staff shows fret numbers and bar lines. The treble staff shows the melody. The key signature is one sharp (F#). The time signature is 4/4. The score includes various chords: G, G7, C, Eb+, and C. The first system starts with a repeat sign and a key signature change to G major. The second system has a key signature change to G major. The third system has a key signature change to G major. The fourth system has a key signature change to G major.

Continuation of the musical score for 'Bye Bye Baby Blues'. It includes a Coda section and a D.S. (al Coda) section. The Coda section is marked with a Coda symbol and a key signature change to G major. The D.S. (al Coda) section is marked with 'D.S. (al Coda)' and a key signature change to G major. The score includes various chords: G, G7, C, Eb+, and G. The key signature is one sharp (F#). The time signature is 4/4. The score includes a ritardando (rit.) marking.

■練習曲 7~8のワンポイント解説

【練習曲 7】

カントリー・ブルースのバイオニアともいえるブラインド・レモン・ジェファソン。張り裂けんばかりのボーカルに呼応するがごとく弾かれる「リズム・テンション」の効いた独特のギター・サウンドは、彼の音楽をとてもドラマチックに演出しました。この曲は、「Rabbit Foot Blues」や「Match Box Blues」など、彼のAのキーのギター・プレイを基にした練習曲です。

Aパートの出だしで弾かれるブギウギのベース・ラインは、右手の親指と人差し指を交互に用いて弾きます。5小節目の最後から7小節目アタマにかけて弾かれるオクターブを用いたフレーズは、親指を半拍前にシンコペートさせてノリを出します。9小節目から10小節目にかけても同様です。5弦から4弦へ、あるいは6弦から5弦へと、ウラ拍からオモテ拍にかけて「バ・ドン」とベースをころがす難易度の高い「スタンプリング・ベース」もさり気なく登場します。

【練習曲 8】

リトル・ハット・ジョーンズは、わずか2年の録音キャリアしかなく、あまり多くのことが知られていません。それでも残された10曲ほどの彼の作品は、テキサス・ブルースの魅力に溢れたものでした。

この曲では、テキサス・カントリー・ブルースのひとつのひな形でもあるモノニック・ベースを用います。右手の手の平の付け根でそのベース音にミュートをかけることによって、エキサイティングなノリを出すことができます。

3小節目や曲の終わりでも登場する、4弦のベース音が半音下降する個所も特徴的なフレーズです。ブラインド・ブレイクやレヴァランド・ゲイリー・デイヴィスといったラグタイム・ブルースマンは、このシチュエーションでは55ページの一冊下の段に出てくるように、G・G7・C・Eb7のコード進行で用いることが多かったのですが、ジョーンズは最後のコードにEb aug (Eb+)を用いました。このコードがサウンドに独特なカラーを加えています。

練習曲 9 **Texas Connection Blues**
 テキサス・コネクション・ブルース

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン：ファニー・パパ・スミス、ウィリー・リード

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-A> <Capo 2> <♪-♪♪>

Musical notation for the first system on page 24, featuring guitar and bass staves with chord markers A and A.

Musical notation for the second system on page 24, featuring guitar and bass staves with chord markers A7, D7, and F.

Musical notation for the third system on page 24, featuring guitar and bass staves with chord markers A.

Musical notation for the fourth system on page 24, featuring guitar and bass staves with chord markers E7, D7, and A, ending with a 'to' symbol.

Musical notation for the first system on page 25, featuring guitar and bass staves with a 'B' section marker.

Musical notation for the second system on page 25, featuring guitar and bass staves with chord markers A7 and D7.

Musical notation for the third system on page 25, featuring guitar and bass staves with chord markers F7 and A.

Musical notation for the fourth system on page 25, featuring guitar and bass staves with chord markers E7, D7, and A.

Musical notation for the fifth system on page 25, featuring guitar and bass staves.

Musical notation for the sixth system on page 25, featuring guitar and bass staves with a 'Coda' section marker and chord marker A7.

D.S. (al Coda)

Musical score for page 28, featuring guitar and bass staves with treble clef notation. The score includes triplets and chords such as A7 and D7. The bass line is mostly open strings with some fretted notes.

練習曲 11 **Lightnin's Shuffle**
ライトニンズ・シャッフル

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ライトニン・ホプキンス

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-E> <Capo 2> <♪ = ♩♩♩>

Musical score for page 29, featuring guitar and bass staves with treble clef notation. It includes an Intro section and a 1st section with a repeat sign. Chords include B7, E, and A. The bass line features a consistent rhythmic pattern of eighth notes.

■練習曲 9～11のワンポイント解説

【練習曲 9】

ブルースマン達は、他のブルースマンのスタイルやテクニックを模倣することによって、自分のスタイルを築き上げてきました。そのため、同じ地域のブルースマンのサウンドにはどこか共通したサウンド・フレーバーが感じられることが多々あります。テキサス・ブルースも 마찬가지です。

この曲は、練習曲8で取り上げたリトル・ハット・ジョーンズをはじめ、ファニー・パパ・スミスやウイリー・リードといった、戦前テキサス・ブルースマン達のトレードマーク・リックをいろいろ組み合わせて作ったAのキーのブルースです。モノニック・ベースが曲全体のリズムを引っ張りますが、時折6弦から5弦への“スタンプリング・ベース”を組み入れて弾みを付けます。“スタンプリング・ベース”は、ブラインド・ブレイクなどラグタイム・ブルースマンの専売特許のようなイメージがありますが、テキサス・ブルースマンも取り入れたテクニックのひとつです。

【練習曲 10】

マンス・リブスカムの初録音は、60代半ばの1960年と非常に遅い時期でしたが、10代の頃から地元テキサス州ナバタでは名の知れた存在でした。ブルース、ラグから、スピリチュアル、バラッドなど、その長いキャリアに匹敵する膨大なレパートリーを誇り、そのレパートリーの大半にドライブ感抜群のモノニック・ベースを用いました。

この練習曲のように、彼はAのキーのブルースを弾くときに、ドロップDチューニングを用いたのですが、これだとサブドミナントのDコードの時に6弦の開放ベースを効果的に活かせるというメリットがあります。ただ、ワン・コーラスに1小節だけ登場するEコードの時だけは、6弦2フレットを親指でネックの上から握り込んでベース音を押さえる必要があります。

前作『ブルース・ギターの常套句生!』やCD付き教則本『リアル・アコースティック・ギター／カントリー・ブルース』(リットーミュージック)でも、マンスのユニークなアイデアを用いた練習曲を紹介していますので、参考にいただければ幸いです。

【練習曲 11】

戦後のテキサス・ブルース界の大物、ライトニン・ホプキンスが弾いた、Eのキーのリズミックなブギ・タイプのプレイを基にした練習曲です。ライトニン・ホプキンスは、親指と人差し指の2フィンガーでプレイしていましたが、私は中指も加えた3フィンガーで弾いています。タブ譜の数字の横に付けたラインが上向きになっている音を全て人差し指で弾けば、ライトニン同様に2フィンガーになります。

1stヴァースではシャッフル・ウォーキング・ベースを弾きますが、右手の付け根辺りをブリッジ・サドルの上に軽く触れさせることでミュート気味に弾きます。また、Eコードに入る前の小節の4拍目ウラに、右手の人差し指で1・2弦開放のブラッシング・アップを入れ、左手人差し指でこの音をカットすることによって、リズムにメリハリを出します。

2nd, 3rdヴァースの1～4小節目のように高音部でリード・ラインを弾くときは、親指のピッキングを1拍単位で弾くモノニック・ベースに切り換えます。どの音が親指と同時のタイミングで弾くかを意識するとタイミングを取りやすいでしょう。

練習曲 12

Lonesome Jackson Blues

ロンサム・ジャクソン・ブルース

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:トミー・ジョンソン

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-E> <Capo 2>

to \emptyset E

2nd.

D.S. (al Coda)

\emptyset Coda E

練習曲 13 Tommy's Driving Blues in D
トミーズ・ドライヴィング・ブルース・イン・D

music by 田村十紀夫

※参考ブルースマン:トミー・ジョンソン

< ドロップDチューニング…DADGBE > < キー-D > < Capo 2 >

Intro. D G7 D G7 D

A

D7 G7 D

G7 D G7 D A7

練習曲 15 **Delta Tradition in A**
 デルタ・トラディション・イン・A

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン：サン・ハウス、ウィリー・ブラウン、トミー・ジョンソン
 <レギュラー・チューニング…EADGBE> <キーA> <Capo 2>

1st.

A7 A

A7 A A7

D7 A

A7 A A7

E7 A7

A7 A to ♯ A7

2nd.

A dim

A7 A dim A7 A dim A7

♯ Coda

Ending A7 A A7

D.S. (al Coda)

練習曲 16 **Roberts' Blues in A**
 ロバート・ブルース・イン・A

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ロバート・ジョンソン、ロバート・ジュニア・ロックウッド

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-A> <Capo 2> <♪ = ♩♪>

Intro. A E7 A7

A A dim A7

D7

A7

A dim A7

E7 D7 A to ①

E7 A7

B A dim A7

A7

■練習曲 14～16のワンポイント解説

【練習曲 14】

1908年ミシシッピ州ヤズー生まれのトミー・マクレンアンは、1920～30年代にはロバート・ペットウェイトと活動を共にし、後にシカゴに移ったデルタ・ブルースマンです。かなりの酒飲みでも知られた、まさに直情型ブルースマンで、そのサウンドも「荒々しい」という表現がぴったりでした。この曲は、そんなマクレンアンのトレードマーク・リックを取り入れて作った練習曲です。

モノトニック・ベース的なベース・パッキングも出てきますが、それも型にはまったものではありません。全体的に、臨機応変なベース音とアドリブ的なメロディ・フレージングを組み入れた変則的なアレンジになっています。Gコードで中指と薬指を5・6弦に置いたまま、小指で1～3弦の3フレット、人差し指で1・2弦の1フレットを追うマクレンアン得意のフレージングが随所に登場します。Dコードの小節では、タブ譜に2弦3フレットの音しか記載されていなくても、通常のDフォームをフルに押さえておく必要があります。

【練習曲 15】

サン・ハウス、ウイリー・ブラウン、チャーリー・パットン、トニー・ジョンソンなど、デルタ・ブルースの巨匠たちがAのキーのブルースで用いた定番フレージングを基に組み立てた練習曲です。

A7の小節では、ロー・ポジションのD7フォームをハイ・ポジションで上下に移動させてフレーズを作ります。ここのピッキングに、私は右手の親指・人差し指・中指を用いましたが、ストラミングを用いることも可能です。その場合4弦の開放が鳴ってしまわないように、3弦を押さえている中指を4弦に軽く触れさせてミュートしておく必要があります。

D7コードは、人差し指で6弦5フレット、中指で3弦5フレット、薬指で1弦5フレットを押さえる独特のフォームを用います。2弦の開放と3弦の音が半音でぶつかる不協和音になっていますが、これが独特のデルタ・フレイバーを生み出します。Cコード・フォームを上げた形となるE7コードも同様で、3弦開放と4弦6フレットが半音でぶつかる不協和音です。また、2ndヴァースで用いるA dimも、1弦と2弦で半音ぶつかりを含んでいます。

【練習曲 16】

ロバート・ジュニア・ロックウッドは、ロバート・ジョンソンの義理の息子というだけあって、ロバート・スタイルの正統な後継者でしょう。この二人のロバートのアイデアを組み合わせた練習曲は、前作「ブルース・ギターの常套句生」でEのキーのパターンを取り上げましたので、ここではAのキーでアレンジしてみました。

Aパートの4小節目は、ロバート・ジョンソンがスクラッパー・ブラックウェルのリフを基に作った非常に美しいカウンターポイント・フレーズです。8フレット・ポジションのD7フォームのA7コードで小指のハンマリング・オンを2弦10フレットに加えた後、2フレット下げて今度は1弦8フレットをハンマリング・オンします。そしてさらに2フレット分ポジションを下げ、人差し指を添えて中指で3弦5フレットの音をクォーター・チョーキングします。Bパートの3小節目からはロックウッドが用いたアイデアで、各コードにおいて、左手小指が7th音と6th音を追います。

ロバート・ジョンソンのギター・スタイルをさらに探究したい方は、私の教則DVD『ギター・スタイル・オブ・ロバート・ジョンソン』（リットーミュージック）も参考にしてください。

練習曲 17 **Moore's Rag in C**
ムーズ・ラグ・イン・C

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ウィリアム・ムア

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-C> <Capo 2>

Intro. F Ab C D7 G7 C

1st. G7 C

F Ab C D7 G7 C

2nd. G7 C

F Ab C A7 D7 G7 C

3rd. G7 C

G7 C

F Ab C D7 G7 C A7

D7 G7 C C7

練習曲 18 **South Carolina Rag**
 サウス・カロライナ・ラグ

music by Willie Walker, arranged by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ウィリー・ウォーカー

<レギュラー・チューニング・EADGBE> <キー-C> <Capo 2> <♪ = ♩ = $\frac{3}{4}$ >

A A7 D7

G7 C

A7 D7

G C G7 to C

B A7 D7

G7 3 C

A7 D7

G7 C G7 C

♯ Coda C7

D.C. (al Coda)

Exercise 17 musical score showing guitar and bass parts with chord changes (F, C, G7, C, G) and tablature.



Tokio Uchida & Ernie Hawkins

■練習曲 17~19のワンポイント解説

【練習曲 17】

ウィリアム・ムーアはジョージア州の生まれですが、幼い時にヴァージニア州タッパハンノックに移り住み、そこで理髪店を営みながら演奏活動をした異色のブルースマンです。ここで取り上げた練習曲は、そんなムーアの1928年録音の「Ragtime Millionaire」を基にしたものです。

ドミナント・コード(G7)とトニック・コード(C)を繰り返すコード進行は、ラグタイム・ミュージックの典型的進行のひとつで、スコット・ジョプリンをはじめとするクラシック・ピアノ・ラグでも頻繁に用いられていたものです。G7コード、Cコードのそれぞれにおいて、3弦2フレットに中指を加えてフレージングしますが、3弦を開放にするときにはその中指を基のコード・フォームの位置に戻します。コード・フォームはできる限りキープするのが、カントリー・ブルース・スタイルの基本でもあります。2ndヴァースのG7&Cのパートでは、親指・人差し指・中指による3フィンガー・ロールを用いて弾きます。リズムに変化を付ける手法として覚えておくくと便利でしょう。

【練習曲 18】

サウス・カロライナ出身のブルースマン、ウィリー・ウォーカーは、残した録音の数はほんのわずかですが、ジョシュ・ホワトや、ある時期ストリング・バンドと一緒に活動したレヴァランド・ゲイリー・デイヴィスらが絶賛したことで、ラグタイム・ブルースの世界では伝説的な存在となっています。

ここでは彼の名作「South Carolina Rag」を練習曲として取り上げました。実際にはサム・ブルックスが加わって2本のギターで演奏されたのですが、1本のギターで弾けるようにアレンジしました。A7・D7・G7・Cという典型的なラグタイム・コード進行を繰り返します。

Aパートの13~14小節目で出てくるようなシングル・ストリング・ランでは、右手の親指と人差し指を交互に用いて弾くことで、ラグタイム・ブルースの正しいノリとアクセントを出すことができます。タブ譜の数字の横に付いているラインの向きに注意してピッキングして下さい。Bパートで用いるA7コードは、2フレットを1~4弦でバレーして小指を1弦5フレットに加える「ロングA」フォームを基にしていますが、フレージングの中で1弦開放の音を加えるために人差し指を反らせる必要があります。

【練習曲 19】

戦前シカゴ・ブルース・シーンで活躍し、フォーク・リバイバルの50年代にはヨーロッパ・ツアーで爆発的人気を博したビッグ・ビル・ブルーンジー。ロック・ミュージシャンからフォーク・ギタリストまで、今日のプリティッシュ系のアーティストには、多大な影響を与えたことでも知られています。パワフルなモトニック・ベースからブラインド・ブレイクばりの「スタンプリング・ベース」、さらには軽快なフラットピッキングまで、多彩なテクニックを誇った実力者でした。

ここで取り上げた練習曲は、モトニック、オルタネイト、スタンプリングの3種類のベース・アプローチを組み合わせたビッグ・ビル・スタイルのラグタイム・ブルースです。彼は、高音部のフィンガリングの関係でベースを正しく押さえられないときには、強めのミュートを効かせて開放弦をモトニック・ベースで弾いてしまうといった荒技も得意としていました。五線譜で「X」と表記したベース音などがその例です。また、各ヴァースの8小節目から10小節目にかけて登場するスタンプリング・ベースの連続は、ビッグ・ビルならではのダイナミックなアプローチで、かなり難易度の高い箇所です。

練習曲 20 That Will Never Happen No More

ザット・ウィル・ネヴァー・ハブ・ノー・モア

music by Blind Blake

※参考ブルースマン:ブラインド・ブレイク

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-G> <Capo 2> <♪ = ♩♪♪>

G D7 G

D7 G G7 E7

A7 D7 G

D7 G D7

G G7 E7 A7

D7 G G7

C Eb7 G G7 E7

A7 D7 G 1. D7 G

2. E7 A7 D7 G G7 C Eb7 G

練習曲 21

Gary's Raggin' Blues in E

ゲイリーズ・ラギン・ブルース・イン・E

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:レヴァランド・ゲイリー・デイヴィス

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-E> <Capo 2> <♪ = ♩♪>

1st.

2nd.

3rd.

■練習曲 20~21のワンポイント解説

【練習曲 20】

史上最高のラグタイム・ブルースマンと言っている、ブラインド・ブレイク。この曲は、1927年の彼の作品です。ロー・ポジションのコードだけを用いるので、左手のフィンガリングはさほど難しくはないと思います。

8小節目は、ノーマルなD7フォームを押さえながら、小指で1弦3フレットをブリッジ・オフします。1弦のメロディだけを押しさえてしまうといった間違いのないように、2弦にカッコした1フレットの音を記載しましたが、必ずしもこのように表記されているとは限らないので、「楽譜に書いてないけど押さえる」音をコード・ネームや前後のつながりから判断できることがカントリー・ブルースでは必要です。

この曲はGのキーですが、ブレイクのCキーの超絶ラグも有名です。前作『ブルース・ギターの常套句 生!』をはじめ、私の教則本、CD、楽譜集で何曲か取り上げていますので、是非参考にしてください。

【練習曲 21】

レヴァランド・ゲイリー・デイヴィスもブラインド・ブレイクと並ぶ歴史的巨匠でした。縦横無尽に指板を駆けめぐる左手と、2フィンガーだけで弾いているとは思えない複雑な右手のピッキングの組合せで、数多くの名演を残しています。

この練習曲は、そんなデイヴィスのEのキーのブルースを基にして組み立てました。1stヴァースと2ndヴァースが12小節ブルース、3rdヴァースが8小節ブルースになっていますが、やや変則的なコード進行になっています。ゲイリー・デイヴィスのプレイのニュアンスを正しく再現するには、タブ譜の数字に付けた右手の指を示すラインの向きに特に注意して下さい。

1stヴァースと2ndヴァースの4小節目後半のE7コードはデイヴィス独特の押さえ方で、人差し指が2弦5フレット、中指が4弦6フレット、薬指が3弦7フレット、小指が1弦7フレットを押さえ、さらに親指でネックの上から握り込んで5、6弦の7フレットを押さえます。親指が5弦まで押さえるのが厳しい場合、ここでは軽く触れてのミュートになっていればOKでしょう。

練習曲 22

Slide Blues for Elmore

スライド・ブルース・フォー・エルモア

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:エルモア・ジェイムス

< オープンDチューニング…DADF#AD > < キー-D > < Capo 2 > < ♪ - ♪³ >

Musical notation for guitar on page 60, first system. Chord: D. Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics.

Musical notation for guitar on page 60, second system. Chords: A, G. Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics.

Musical notation for guitar on page 60, third system. Chords: D, A7. Includes treble and bass staves with fingerings, dynamics, and a 'to C' marking.

Musical notation for guitar on page 60, fourth system. Chord: D. Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics. Marked 'Var.'.

Musical notation for guitar on page 60, fifth system. Chord: D9. Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics.

Musical notation for guitar on page 61, first system. Chords: G, (Bb). Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics.

Musical notation for guitar on page 61, second system. Chord: D. Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics.

Musical notation for guitar on page 61, third system. Chords: A7, G. Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics.

Musical notation for guitar on page 61, fourth system. Chords: D, A. Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics.

Musical notation for guitar on page 61, fifth system. Chord: Coda. Includes treble and bass staves with fingerings and dynamics.

D.S. (al Coda)

練習曲 23

Patton's Spoonful

パットンズ・スプーンフル

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:チャーリー・パットン

< オープンDチューニング…DADF#AD > < キー-D > < Capo 2 >

D.S. (al Coda)

■練習曲 22～23のワンポイント解説

【練習曲 22】

シカゴ・ブルースの巨人、エルモア・ジェームスは、ロバート・ジョンソンの「Dust My Broom」をカバーした、オープンDチューニングでのダイナミックなスライド・ブレイで一世を風靡しました。この練習曲では、そんな彼のトレードマーク・リックを取り入れて、ソロのインストとして組み立ててみました。タブ譜の下に「f」と書いてある音は押弦しますが、それ以外は全てスライド・バーでカバーします。

Verseの2小節目は、4弦12フレットをスライド・ダウンさせた後、2拍目ウラで左手の中指を5弦2フレットに加えて、ウォーキング・ベースを弾きます。難しいのは4小節目で、ここでは3弦12フレットのメロディを2拍3連で弾きます。2拍を3等分する2拍3連というリズムは非常に感覚的なものですが、親指のピッキングを絡めてトータルなリズムを考えると比較的弾きやすくなります。

なお、ロバジョンのオリジナルは、ボトルネック奏法ではなく、ドロップDチューニングでの通常のフィンガーピッキングでした。私の教則DVD「ギター・スタイル・オブ・ロバート・ジョンソン」(リットミュージック)でも取り上げていますので、比べてみると興味深いと思います。

【練習曲 23】

この練習曲は、“デルタ・ブルースの創始者”チャーリー・パットンが「Spoonful」で弾いたスライド・ブレイを基に組み立てました。タブ譜上の開放弦以外の音は全てスライド・バーでカバーします。ラグタイム・ブルースの定番コード進行のひとつを用いた曲で、練習曲18と相対的に同じコード進行です。

Aパートの3小節目前半は、スライド・バーがコード・ポジションを離れてメロディをカバーしなければならないので、開放のベース音を右手付け根で強めにミュートします。Bパートは、コード・ポジションを中心に、1フレット下のアプローチ・ノートを組み合わせて、8ビートに対して8分音符3つ単位で転がすように弾きます。サム・ミッチェルのスライド・ブレイから学んだアイデアで、ブルーグラスのDプロ・プレイヤーなどにも取り入れられる、シンコペーションの効いたアプローチです。

練習曲 25

Come On In My Kitchen

カモン・イン・マイ・キッチン

music by Robert Johnson

※参考ブルースマン:ロバート・ジョンソン

< オープニングチューニング…DGDGBD > < キー-G > < Capo 2 > < ♪-♪♪ >

Intro.

1st.

3rd.

3rd.

to 0

2nd.

3

D.S. (al Coda)

0 Coda

3rd.

3rd.

3

f

練習曲 26 **Bo Weavil's Slide Blues in G**
 ボー・ウィーヴィルズ・スライド・ブルース・イン・G

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン: ボー・ウィーヴィル・ジャクソン

< オープニングチューニング...DGDGBD > < キー-G > < Capo 2 >

A $\text{\textcircled{G}}$

C

G

D **G**

B

C

G

D **C** **G** to $\text{\textcircled{\Phi}}$

$\text{\textcircled{\Phi}}$ Coda

D.S. (al Coda)

■練習曲 24～26のワンポイント解説

【練習曲 24】

フレッド・マクドウェルは1904年生まれと、世代的には戦前派に属しますが、初録音はアラン・ローマックスによる1959年のフィールド録音でした。コード・チェンジをしないワン・コードのモーダルなサウンドを得意としていたため、スライド・バーは短めのを薬指にはめ、全弦をカバーするスライド・ワークは一切登場しませんでした。

彼のスタイルを基に作った、オープンDチューニングも用いるこの練習曲も、右手親指が開放弦だけでリズムを刻み、高音側のメロディは開放弦以外、全てスライド・バーを用いて弾きます。イントロ2小節目で登場する2弦3フレットのハンマリング・オンもスライド・バーで行うのですが、あまり強く打ちつけないように注意して下さい。マクドウェル奏法で難しいのが、Aパートの1～3小節目のように、オルタネイティング・ベースの1・3拍目のベース音をオミットするところです。基本的なオルタネイティング・ベースで弾けば何ということがないフレーズも、1・3拍目のベース音を抜いて弾こうとすると全く弾けなくなってしまうほどです。

【練習曲 25】

オープンGチューニングを用いた練習曲の1曲目は、ご存じロバート・ジョンソンの名曲「Come On In My Kitchen」です。ミシシッピ・シークスの「Sitting On Top Of The World」やタンバ・レッドの「Things 'Bout Coming My Way」などでもお馴染みの伝統的なブルース・メロディを用いた曲です。ちなみに本DVDのデモ演奏で弾いている私の「Lightnin' In Mississippi」も、このメロディを基にライトニン・ホプキンス風にアレンジしたものです。

ここで弾かれるメロディ・ラインは基本的にスライド・バーを用いて弾きますが、タブ譜の下に「f」と書いてある音だけは左手の指で押弦します。スライド・アップのラインが付いている各メロディ音へは、そのポジションへ1フレット下くらいから持っていけばいいでしょう。また、ベース音を開放弦で弾くため、スライド・バーは1～3弦だけをカバーするようにして下さい。

1stヴァース8小節目の4・3弦でのスライド・ラインには、タブ譜において数字に上下のラインが付いています。ここでは1本の弦を2本の指(親指と人差し指)で同時にピッキングする“スピットینگ・サウンド”テクニックを用い、このフィルインのメロディを際立ったサウンドにします。練習曲12でもご紹介したワザです。

【練習曲 26】

ボニー・ウィーヴィル・ジャクソンは、1926年にパラマウント・レコードへ録音を残した初期のカントリー・ブルースマンで、スピード感溢れるダイナミックなホルンネック・スライド奏法を得意としていました。パラマウントと専属契約を結んでいたにもかかわらず、サム・パトラーという別の名前で同時期にライバル会社(ヴォカリオン・レコード)にも録音したという、肝っ玉の据わったアーティストでした。

彼は、オープンDチューニングでのスライドもレパートリーにしていたのですが、ここではオープンGを用いたプレイを基に練習曲を作ってみました。タブ譜の下に「f」と書いてある音が押弦で、それ以外はスライド・バーでカバーします。ベースを一定にキープするといったような型がない、非常に変則的なピッキングとリズムで弾きます。例えば、A、B各パートの5小節目などは、2拍目で5フレット・ポジションのCコードにチェンジしますので、拍の感覚を見失わないように注意して下さい。

練習曲 27

Lonely Night Journey

独りの夜道

music by 打田十紀夫

<レギュラー・チューニング…EADGBE> <キー-E> <Capo 2>

The musical score for "Lonely Night Journey" is presented in standard notation with guitar-specific details. It begins with an Intro in 8/8 time, featuring chords G#m7, C#7(b5), F#m7, and B7. The main sections, A and B, are in 4/4 time. Section A includes chords Edim, B7, E, B7(#9), E, D#dim, A7, and F#dim. Section B includes E, D#dim, A7, and F#dim. The score includes detailed fretting diagrams for the guitar, including techniques like hammer-ons, slides, and bends. The key signature is one sharp (F#), and the capo is positioned at the second fret.

E D#dim A7 F#dim

Edim B7 to E

[B] A7

E E7(#9)

A7

E E7(#9)

G#m7 C#7(b5) F#m7 B7

Edim B7 E B7

D.S. (al Coda)

⊕ Coda E Edim B7

E E9

rit. -----

練習曲 28 **Lonnie's Mystique**
ロニー・ミステイク

music by 打田十紀夫

※参考ブルースマン:ロニー・ジョンソン

<ドロップGチューニング…DGDGBE> <キー-D> <Capo 2> <メロディ>

Intro. A7 G D D7 Fdim Edim D

A7 1st. D

G

D

A7 G to D D7 Fdim Edim D

A7 2nd. D

G7

D

A7 D

3rd.

G

D

A7

D

A7

⊕ Coda D D7 Fdim Edim D

D.S. (al Coda)

The score consists of five systems of music. Each system includes a treble clef staff with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). Below the treble staff are three guitar staves labeled T (Treble), A (Acoustic), and B (Bass). The first system is marked '3rd.' and includes a '3' on the treble staff. The second system is marked 'G' and includes 'Cho Cho & CD' on the treble staff. The third system is marked 'D' and includes 'Cho & CD' on the treble staff. The fourth system is marked 'A7' and 'D'. The fifth system is marked 'A7' and '⊕ Coda D D7 Fdim Edim D'. The 'D.S. (al Coda)' instruction is placed below the final system.

■練習曲 27～28のワンポイント解説

【練習曲 27】

私のCD『ココナッツ・クラッシュ』（TABギタースクール）に収録されているオリジナル曲です。カウンターポイント・ラインとモダンなテンション・コードを組み合わせて作ったブルース・フィーリング溢れる曲です。

Aパートは、ベース・ラインの動きに特徴を持たせてあります。4小節目の2拍目はフィンガリングに注意が必要な個所で、1～4弦の5フレットの人差し指バレーと3弦6フレットの中指を1拍目から残したまま、まず薬指を1弦6フレットに持っていきます。3連の3つ目のところで左手のポジションを変え、人差し指を1弦7フレットに持っていきます。フィンガーピッキングでは、どこでフィンガリングを変えるかが非常に重要です。BパートのA7コードの小節で弾くブルース・リックは、6度ハーモニーを基にした、モダンなブギウギ・フレージングです。

ここでのアレンジは、教則用にショート・バージョンにしておりますので、是非CDでのフル・バージョンも聴いていただきたいと思います。

【練習曲 28】

ドロップGチューニングを用いてDのキーで弾くというロニー・ジョンソンのアイデアで作ったオリジナル曲です。ドロップGはレギュラー・チューニングとオープン・チューニングの利点を兼ね備えた便利なチューニングです。Dのキーでプレイすると、トニックのDコードとサブドミナントのGコードの時に開放のベース弦をうまく活用でき、片や1～4弦はレギュラーのままなので、通常のフィンガリングを維持できるのです。ドミナントのA7コードの時だけは開放にベース音がありませんので、この場合はベース音を弾かないか、あるいは1stヴァース9小節目1拍目のように、右手付け根でのミュートを強めにかけて6弦開放をピッキングして、音程の感じられないパーカッシブなサウンドにします（5線譜の音符を‘X’で表記）。

基本的にはオルタネイティング・ベースを基調にしていますが、ベースのシンコペーションを加えたり、シングル・ノート・パッセージを組み入れてあります。タブ譜の数字の横に付けた、ピッキングする右手の指を示すラインの向きを注意深くチェックしてトライして下さい。この曲も教則用にショート・バージョンになっていますが、CD『Tokio Acoustic Blues』（TABギタースクール）では7thヴァースまでバリエーションを演奏しています。



【ココナッツ・クラッシュ】（CD & 楽譜集）



【Tokio Acoustic Blues】（CD & 楽譜集）